



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

大きな声で笑おう

“ワッハハハハ” 1年の苦労を忘れる「笑い講」



大きな声で笑うことで、ことし1年の苦労を忘れて来年の豊作を願う神事、「笑い講」が5日、山口県防府市で行われました。

「笑い講」は防府市で鎌倉時代から800年以上続く神事で、小俣八幡宮の拝殿には、はかま姿の氏子などおよそ20人が集まりました。

拝殿に集まった参加者は、新型コロナウイルスの感染対策としてマスクを着けて距離をとったうえで、神事にのぞみました。

宮司がたたく太鼓の音が鳴り響く中、参加者は2人1組で順番に「ワッハハハハ」と大きな声で3回笑いました。

最初の笑いはことしの収穫への感謝、2回目の笑いは来年の豊作の祈願、最後の笑いは、ことしの苦しみや悲しみを忘れようという意味が込められているということです。

そして、最後に参加者全員で3回笑い、拝殿にはこの日いちばん大きな笑い声が響きました。

「笑い講」のことしの世話役を務めた方は「1年間のしめくりができて感謝しています。新型コロナウイルスの影響を受けている人もいますが、幸せの輪が広がってほしいです」と話していました。



大きな声で笑う参加者たち
(NHK NEWSより)



身を乗り出して話し合う子供たち
(コロナ禍前の KOMABA)

2021年最後の月、今年も落ち着いた日が続きました。そんな状況下で強く学んだことは、対人でのコミュニケーションによって得られるものも多くあるということです。今回の記事にある「笑い」が一つの例です。もちろん動画やテレビを見て笑うことはできますが、対面を通して一緒に笑いあうという「時間と感情の共有」こそが、人と人との間に信頼関係を築く基盤になるのだと気づかされた1年でした。例えば対面授業を経てからは、生徒がより気軽に趣味の話をしてくれたり、悩みを話してくれたりするようになりました。2020年度のオンライン授業中では生徒1人1人となるべく心を通わせられるような関係づくりに努めていたものの、やはり対面授業を経て信頼してもらえようになったのだと思います。直接生徒と話すことができる今、今ある環境に感謝をしななければいけません。この感謝の気持ちと気づきを、子供たちにも伝えていかなければいけないと、強く感じています。今年もありがとうございました。皆様よい年末をお過ごしください。(谷口)